

理事会報告

日本菌学会 2018 年度第 2 回理事会 議事録

日時：2018 年 5 月 25 日（金）12：00～15：00

場所：信州大学伊那キャンパス ゆりの木 研修室

出席者（順不同，敬省略）：山岡裕一（会長），矢口貴志（副会長），岡根 泉（庶務），清水公德（庶務），玉井 裕（日本菌学会会報編集責任者），出川洋介（国際集会），中島千晴（会計），名部みち代（国内集会），服部 力（編集委員長），山田明義（国内集会），鶴海泰久（監事），田中一新（監事），伴さやか（庶務幹事），喜友名朝彦（庶務幹事）。

委任状：太田祐子（企画・普及），田中千尋（企画・普及）。

会議成立の確認：理事会の開催に先立ち，会長，副会長，理事 10 名（委任状含む），監事 2 名の出席により，理事会が成立したことを確認した。

会長挨拶：理事会の開催にあたり，山岡会長が挨拶した。監事 2 名に今回から出席を依頼した。

報告事項

資料をもとに以下の事項の報告があり，承認された。

1. 庶務関係（岡根・清水 庶務担当理事）

1) 会員動向：2018 年 3 月現在，正会員 627 名（国内 585，国外 42），学生会員 156 名（国内 139・国外 17），英文誌購読会員 32 名（全て国外），終身会員 140 名（全て国内），名誉会員 24 名（国内 21，国外 3），功労会員 2 名，賛助会員 15 社，会員総数 996 名。

2) 学会法人化関係

- ・業務契約書（平成 29 年 5 月 1 日付）に従い会計士との業務契約を締結。
- ・財産移行：任意団体から法人への財産移行を平成 29 年 8 月 9 日付で完了。
- ・各種規則の修正案を理事会ならびに会則検討委員会に諮問。
- ・平成 30 年 5 月 14 日，勝美印刷内において 2017 年度業務・会計監査を実施。適切に事業が実施されていることを確認。

3) その他

- ・第 1 回総会で会員除名候補者名簿を回覧し，6 月末を目途に除名することについて承認を得ることが報告され，承認された。
- ・事務局（勝美印刷）のメールサーバーの問題でメールが不達となった事例，また，会報等の郵便物が届かない事例があり，これらについては事務局が対応することが報告された。

2. 国内集会関係（山田・名部 国内集会担当理事）

1) 日本菌学会第 61 回大会（環境微生物系学会合同大会 2017）

- ・会期：2017 年 8 月 28 日（月）～31 日（木）；会場：東北大学川内北キャンパス；大会会長：齋藤雅典氏（東北大学）；会期日程に沿って全ての日程が無事終了。
- ・大会会計全体の収支は黒字。合同大会ホームページ運営，高校生ポスター発表実施状況，学会託児関係，優秀ポスター賞関連およびポスター会場について総括。

2) 2017 年度日本菌学会菌類観察会（銚子フォーレ）

- ・会期：2017 年 9 月 22 日（金）～24 日（日）；会場：千葉科学大学ならびに千葉県銚子市（君ヶ浜しおさい公園）・東庄町（東庄県民の森）；実行委員長：糟谷大河氏（千葉科学大学）；講演会：22 日（日）千葉科学大学 マリーナキャンパス，観察会：23 日（土），「君ヶ浜しおさい公園」および「東庄県民の森」，同定会場は千葉科学大学本部キャンパス；参加者：86 名。11 月末に会計処理済。

3. 国際集会関係（出川 国際集会担当理事）

1) 第 9 回国際変形菌類分類生態学会議（ICSEM9）（日本変形菌研究会主催，田辺市・南方熊楠顕彰会・日本菌学会共催）

- ・会期：2017 年 8 月 18 日～22 日；和歌山県田辺市；参加者：220 名。

2) アジア国際菌学会（AMC2017）

- ・会期：2017 年 10 月 10 日～13 日；ホーチミン；参加者：198 名（日本人 35 名）。

- ・Mycoscience の国際発信力強化の一環として日本菌学会主催国際シンポジウムを企画・実施（日本人講演者：3 名による）；4 名の若手会員に参加経費を支援。

3) 台湾日本合同シンポジウム（2017 台日真菌學術研討會）

- ・会期：2017 年 10 月 21 日；台北；参加者：台湾側約 150 名，日本側 8 名。
- ・Mycoscience の国際発信力強化の一環として日本側から植物病理学に関する内容の講演のため，2 名の演者を派遣。

4) 国立科学博物館国際シンポジウム 2017（国立科学博物館主催，日本菌学会協力）

- ・2017 年 11 月 10 日～12 日；国立科学博物館上野本館講堂；参加者（延べ人数）：193 名。

5) IMC 次期開催国決定の協議：IMC 次期開催国決定のため，会長，副会長，国際担当理事の 3 名による投票を実施。次期開催国はオランダ（アムステルダム）に決定。

4. 企画・普及関係（太田・田中 企画普及担当理事，代理：清水 庶務理事）

1) 普及行事

- ・大学生向け講座「大学生のための菌類学入門」（国立科学博物館共催），2017 年 8 月 5 日，国立科学博物館目黒

自然教育園. 講師:細矢剛氏(国立科学博物館). 参加人数: 48名.

- ・中高生向け講座「植物病原菌を観察しよう」(日本大学生物資源科学部後援), 2017年8月31日, 日本大学生物資源科学部. 講師:佐藤豊三氏(農研機構遺伝資源センター). 参加人数:16名. 会長名の修了証書を発行し参加者に送付.
 - ・こどもを対象としたアウトリーチ活動「いきものマイクロたんけん隊」(微生物生態学会共催), 2017年11月23日. 茨城県自然博物館. 参加人数:約45名. 菌学会からの講師:細矢剛氏, ボランティアとして山田智子氏が参加.
 - ・自然史学会連合主催講演会へのブース出展「身近で不思議な菌の仲間たち!」(自然史学会連合主催, 菌学会協力), 2017年11月4日. アクアマリン福島. 担当:保坂健太郎氏(国立科学博物館). 参加人数:多数.
 - ・国立科学博物館国際シンポジウム 2017 Fungi with plants, animals and human beings (菌類と動物・植物・人間の関わり)(国立科学博物館主催・日本菌学会協力), 2017年11月10~12日. 国立科学博物館上野本館講堂. 参加人数(のべ人数):160名.
- 2) 環境微生物系学会合同大会高校生ポスター副賞提供
 - ・環境微生物系学会合同大会において教育普及活動の一環として, 「驚きの菌ワールド」4冊を高校生ポスター賞の副賞として提供.
 - 3) 国際・国内イベントでの菌学会紹介(入会勧誘)
 - ・第9回国際変形菌分類生態学会議(ICSEM9), アジア菌学会(AMC2017), 環境微生物系学会合同大会で, 菌学会宣伝ポスター展示, Mycoscienceのチラシ配布, 見本掲示, 菌学会パンフの配布. 環境微生物系学会合同大会では, 「驚きの菌ワールド」の販売.
 - 4) ニュースレター発行(白水幹事)
 - ・順調に発行. ニュースレター編集用に組版ソフトの購入を検討中.
 - 5) 八坂書房「日本菌類百選」の協力
 - ・引き続き協力. 近日中にほぼ全ての原稿が集まるとのこと.
 - 6) ホームページ(田中幹事)
 - ・各種情報を適宜掲載し, SNSで発信.
 - 7) ウェブサイト運営編集方針, メーリングリスト運用方針を決定
 - ・情報発信のルールを整理し, 本ルールに基づき新HPを開設.
 - 8) 新ホームページ開設
 - ・2018年4月2日に新ホームページを開設, 同時にワーキンググループを解散.

5. 編集委員会関係(服部・玉井 編集担当理事)

- 1) 学会誌の発行状況
 - ・Mycoscience: Vol. 59(4)をISAM特集号とし, 掲載予定

論文は論文7編, 資料1編, pp. 64程度. Vol. 59 予想頁数500頁強(契約上限を50頁程度超過見込み). EVISEのトラブルなどで受理論文が減少しているが, 現時点で概ね2号分のストックを確保. EVISE移行後, 論文受理のペースが落ちている.

- ・日本菌学会会報(以下, 日菌報):第59巻(2018年), 59巻1号に論文2編掲載(5月発行予定). 受理決定次第順次J-STAGEから早期公開. 日菌報50(1)~58(2)は公開済. 日菌報41巻~49巻をJ-STAGE搭載作業中. 日菌報59(1)より投稿票の「連絡先」に記入された著者を「責任著者(Corresponding author)」として各論文1頁目左下に電子メールアドレスを記すこととした. クラリベイト・アナリティクス社のBIOSIS収録により海外発信に繋がることが期待されることから, BIOSISにロック解除した日菌報の論文PDFファイルを送る方向で承認.
- 2) 投稿状況(Mycoscience)について
 - ・2016年~2017年にかけて2年連続で却下率が減少. 2018年度(1月1日~4月23日)も却下率が落ち着きつつある.
 - ・国別投稿数:日本(51), 中国(35), インド(13)ほか, アジア各国からコンスタントに投稿.
 - 3) Mycoscienceのインパクトファクター(IF)の推移について
 - ・2014年から年々低下している(2016年IF 1.014)
 - 4) 編集委員会の開催
 - ・第1回編集委員会(2017年4月24日付メール会議):学会賞受賞論文に関わる招待総説をオープンアクセスとすることについて.
 - ・第2回編集委員会2017年8月28日開催(大会期間中).
 - ・第3回編集委員会(2017年9月12日付メール会議):平塚賞推薦論文の選考について.
 - 5) 新オフセットスタイルの導入について(Mycoscience)
 - ・59巻(2018年)より, 新オフセットスタイル(エルゼビア統一スタイル)の導入. 引用文献については, APAスタイルを導入. 各パラグラフの最初に自動的にインデント. 検索表や新種記載部など不適當箇所は, プルーフチェックによる修正.
 - 6) Mycoscience 投稿規定の改訂
 - ・オフセットスタイル変更に伴い規定を改訂. エルゼビアポリシーから「ページチャージ」の適用が不可のため, 「投稿料」として徴収.
 - ・プレプリントは, 二重投稿などの問題となる事前掲載には該当しないことを明記することについてエルゼビア社から打診があり, 編集委員会での審議を経て了承, 投稿規定に追加.
 - 7) Elsevier Editorial System (EES) から EVISE への移行
 - ・2018年2月21日より新投稿審査システムEVISEに移行.

EES との機能の違いなどからトラブルが発生。エルゼビア担当者に改善を依頼。編集委員には対処法の提示。

・EES を通じて投稿された論文についてはEESでの審査を継続することになっていたが、急遽全投稿論文がEVISEに移行。移行論文を中心にトラブルが続発。

8) 2017年度平塚賞候補論文の選出

・2論文を平塚賞候補論文として推薦。

9) ISAM 関連特別号

・2017年開催の10th International Symposium on Arctic and Alpine Mycology (ISAM10)での発表内容の中から、論文投稿を受けた。

・出版が大幅に遅れ、59巻4号をISAM特集号とすることとした。

10) 名誉会員の追悼文について

・Lichtwardt 名誉会員の逝去に伴う追悼文について執筆依頼。

11) エルゼビア担当者の変更

・5月から担当が東京支社日本人スタッフから北京支社スタッフに変更。サービスの状況に変化。

12) 編集経費

・Mycoscience: 編集補助謝金(スタイル・チェッカー謝金): 今年度は支出なし。

・日菌報: 英文校閲料; 3,756円×1回[59(1)分], J-STAGE 掲載作業料: 318,000円[41(1)~49(2):129報分, 2018年度予算から支出予定]

6. 会計関係 (中島 会計担当理事)

1) 2017年度一般会計決算案と2017年度特別会計決算案について: 資料に沿って説明が行われ、承認された。

2) 法人化により、会計士による全ての帳票類と使途について精査、貸借対照表の作成が行われた。これまでと異なる点は、資金の流れが明確となるよう口座間の資金の移動についても記載されるようになっている。補助金等の入金までの一時立て替えが、これに該当し、当該費目については備考において説明される。詳細について質疑応答が行われ、報告が承認された。

3) 2017年度一般会計決算案の中身について: 雑収入が法人移行時の一次預かり金が含まれて多額となっているが、問題がないことを会計士に確認済。無償配布が増加した場合、事業を行っていると認識され、課税される可能性有。会費は非課税、出版物なら課税対象。

7. 会計監査報告・監査報告 (鶴海・田中 監事)

1) 2017年度の業務および会計監査を実施し、適切に事業が実施されていることを確認したことが報告された。

2) 2017年度会計監査報告と監査報告について、後者の監査報告を正式な資料として残すことが承認された。

審議事項

資料をもとに以下の事項について審議した結果、承認さ

れた。

1. 庶務関係 (岡根・清水 庶務担当理事)

1) 本年度事業の概要

2) 会議の開催について

3) 名誉会員候補の推挙、各賞候補、功労会員候補者の募集について

4) 業務委託・会誌の出版について

5) 役員選挙について

6) 法人化関係

・各種規則の修正案について、改訂前と改訂後(会則検討委員会答申済)の内容について、審議を行った結果、一部条文の修正を含めて承認された。

・各種規則の修正案を総会に提出することが承認された。

2. 国内集関係 (山田・名部 国内集担当理事)

1) 日本菌学会第62回大会(信州)の開催について

・大会プログラムについて説明が行われ、承認された。

・登録概況(2018年5月17日現在); 大会参加登録者247名(日韓シンポ参加者, 中高校生ポスター発表者ら含む)。

2) 2018年度日本菌学会菌類観察会(島根フォーレ)について

・会期: 2018年9月22日(土)~24日(月・祝); 会場: 島根県大田市, 三瓶山周辺; 実行委員長: 長澤栄史氏(菌蕈研究所); 日菌報59巻1号および日本菌学会ホームページを通じて行うことが承認された。

3) 日本菌学会第63回大会開催案の策定について

・秋田県立大学生物資源科学部において、大会会長: 村口元氏(秋田県立大学), 会期: 2019年5月24日(金)~26日(日)の内容で審議した結果、承認された。

4) 2019年度日本菌学会菌類観察会開催案の策定について
・2019年9月6日~8日, 青森県, 岩木山, 白神山地とその周辺(予定)で開催することについて審議した結果、承認された。

・実行委員長: 佐野輝男氏(弘前大学), 共催団体: 弘前大学, 日本菌学会東北支部, 菌類懇話会, その他予定。

3. 国際集関係 (出川 国際集担当理事)

1) 日本菌学会若手会員に対するIMC11参加経費支援

・2018年4月末まで募集をした結果、3件の応募があり、事前のメール審議にて3名全員に各5万円ずつの支援を行うことが承認された旨を確認。

2) 日本菌学会第62回大会(信州)における日韓合同シンポジウムの開催について

・年次大会中に、日本菌学会-韓国菌学会 合同シンポジウムMSJ-KSM International Symposiumを開催することが承認された。

・日時場所: 5月26日(土) 13:00~15:30; 信州大学農学部F棟2F, 30番教室。

3) 日本菌学会第62回大会後の国際菌類観察会の実施について

- ・5月27日～29日，筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所にて開催予定。
- ・18名より申込みがあり，韓国からのKSM会員3名（ベト病菌等，植物病原菌類の専門家）が参加予定。
- 4) 日本－台湾合同企画について
- ・2018年12月頃に，東京都内にて菌学会関東支部と合同シンポジウム形式で実施する案について，引き続き，先方と協議を進めながら検討中であることが報告され，次年度計画として承認された。

4. 企画・普及関係（太田・田中企画普及担当理事，代理：清水庶務理事）

- 1) 各種イベント：教員のための菌類講座（7月），自然史セミナー菌類学入門（8月），高校生のための菌類講座（8月），自然史学会連合主催講演会へのブース出店（10月），微生物生態学会との共催アウトリーチ（11月）。
- 2) 出版：ニュースレター。
- 3) 学会ホームページ：コンテンツの充実と英文ページの作成，SNS等を通じた情報発信。
- 4) 宣伝活動：IMC等の国際イベントでの宣伝活動。

5. 編集委員会関係（服部・玉井編集担当理事）

- 1) Mycoscience 出版計画について審議した結果，承認された。
 - ・Elsevier社に出版委託を行う。年間契約ページ420ページとし，6号分を出版する。ページ数が増えた場合は超過ページ料金（15,000円／頁）で対応する。
 - ・学会負担（科研費）による一部論文オープンアクセスを継続する。
- 2) 日本菌学会会報（以下，日菌報）出版計画について審議した結果，承認された。
 - ・日菌報第59巻1号（5月），2号（11月）を発行する。
 - ・J-STAGEに日菌報バックナンバー [41(1)～49(2)：129報分] を搭載する。
- 3) 平塚賞候補論文および日本菌学会報論文賞授賞論文の推薦について審議した結果，承認された。
 - ・平塚賞候補論文の選出について，メール会議を通じて選考を行い推薦する。
- 4) その他
 - ・日菌報投稿規定の改定。
 - ・日菌報投稿票事項の変更。

6. 会計関係（中島会計担当理事）

- 1) 2018年度一般会計予算案と2018年度特別会計予算案
 - ・2018年度一般会計予算案の中身について：年次大会補助については，地方開催の場合に参加者が減る可能性。今後の大会補助費用について増加を含めた検討が必要。学会賞の費用は最大限の費用（4賞分含む）として計上。役員選挙費用は，前回の予算を参考に計上。

7. その他

- 1) AMC2019開催協力依頼について（山岡会長）

- ・日本微生物学連盟の後援は承認済。他学会や企業等への協力依頼文書について説明。
- ・2018年5月25日からAMC2019の公式HPが運用開始。
- 2) 会員減少対応について（山岡会長）
 - ・意見交換。
- 3) 第3回環境微生物系学会合同大会の開催について（山田理事）
 - ・2020年開催予定の第3回大会について菌学会への検討依頼あり。

以上